

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																	
日本工学院八王子専門学校	昭和62年3月27日	山野 大星	〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111																																	
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																	
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	千葉 茂	〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111																																	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
工業	工科技術専門課程	応用生物学科	平成21(2009)年度	-	平成26(2014)年度																															
学科の目的	生活必需品である医薬品・食品・化粧品等の基礎となるバイオテクノロジー分野において、技術者としての実力を備えた社会の中堅たる人材を養成する。健康・衛生関連分野での製造・品質管理などに携わる人材を育成し、実務に関する知識、技術を教授する為、企業との連携を密にする事により実践的かつ専門的な能力を有する人材を育成する事を目的とする。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	中級バイオ技術者認定、品質管理検定3級・4級、有機溶剤作業主任者、特定化学物質・四アルキル鉛等作業主任者、小規模ボイラ取扱者、低圧電気取扱特別教育、ビジネス能力検定ジョブパス3級 中退率:2.0%																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,785 単位時間	870 単位時間	0 単位時間	1,110 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																												
			単位	単位	単位	単位	単位	単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)		中退率																													
80人	56人		5人		9%		2%																													
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(O)</td><td>22</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>22</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>19</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>15</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>86</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>79</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/O)</td><td>86</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>3</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) AGC(株)、日鉄鉱業(株)、森永乳業(株)、(株)ペリカン石炭、JTプラントサービス(株)、横浜森永乳業(株)、(株)コスメナチュラルズ、(株)シーエスラボ、(株)住化分析センター、JAIいわて花巻他</p>								■卒業者数(O)	22	人	■就職希望者数(D)	22	人	■就職者数(E)	19	人	■地元就職者数(F)	15	人	■就職率(E/D)	86	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	79	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/O)	86	%	■進学者数	3	人	■その他			
■卒業者数(O)	22	人																																		
■就職希望者数(D)	22	人																																		
■就職者数(E)	19	人																																		
■地元就職者数(F)	15	人																																		
■就職率(E/D)	86	%																																		
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	79	%																																		
■卒業者に占める就職者の割合(E/O)	86	%																																		
■進学者数	3	人																																		
■その他																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校 等評価研究機構 受審年月: 平成26年3月 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																			
当該学科のホームページURL	https://www.neec.ac.jp/department/technology/biology/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Eいずれかに記入)	<p>(A:単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B:単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間	うち必修授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位
総授業時数	60 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間																																			
うち必修授業時数	60 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																			
総授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																			
うち必修授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>2人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>2人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計		2人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																		
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																		
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																		
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	2人																																		
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																		
計		2人																																		

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業が必要とする人材を育成する為に、企業へのヒアリングやアンケートを通して実務に関する知識や技術を調査し、授業科目の改善や内容の工夫を行う。更に、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。教育課程編成委員会への報告も行い、常に授業内容や方法を検証する事により実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
玉腰 雅忠	東京薬科大学 准教授	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	②
服部 公哉	株式会社 ミートコンパニオン 課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
柿沼 健一	医療法人社団 慶幸会 事務長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	-
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	-
山田 俊之	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	-
菅 禎彦	日本工学院八王子専門学校 科長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(前期・後期)本年度は新型コロナウイルス感染症により実施方法をオンライン併用するなどして行った。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年08月03日 14:00～16:00

第2回 令和6年03月06日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員の方から、入社してくる若い世代に考える力や想像する力などが不足している印象があるとのことから、問題解決能力の育成に重点を置く必要があるとの意見を受けた。また、サンプルの廃棄や器具の片付け等の基礎的な社会人も重視してほしいとの意見を受けた。これらの意見から、今後さらに学科で取り組んでいるプレゼンテーションに関わる授業については、今後も進めて欲しいとの意見も受けたが、加えて資料を作成する際の肖像権や著作権などについても教育してほしいとの意見を受けた。これらの意見から、今後さらに発信力のある学生を育成するための授業方法を工夫していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 化粧品実験に関しては、化粧品会社より現役で研究開発に携わっている方を講師として派遣してもらい、スキンケア商品、ヘアケア商品の実際の製造を通して、乳化技術などの化粧品製造の基本技術について指導をしていただいた。実験では製造現場での品質管理についてもアドバイスもらい、現場で用いられる基準などを使用し実験結果などにも管理指標となるような数値を利用して測定できているかなども評価対象にすることとし、評価基準に対してのグレード付も連携企業とともに作成することとした。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
化粧品実験 ※2023カリキュラム →2024カリキュラム「化粧品製造実習」に対応	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	化粧品の製造技術や成分の分析技術など様々な実験技術を習得します。	株式会社マツモト交商

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	CITE JAPAN 2023 第11回 化粧品産業技術展	連携企業等:	日本化粧品原料協会連合会
期間:	令和5年5月18日(木)10:00～18:00	対象:	応用生物学科専任教員
内容:	化粧品産業において有用且つ最新の素材・技術・サービスに関連する展示と技術発表から情報収集し、化粧品産業の最新のトレンドを知ることができた。また、技術発表会においては、様々な新規化粧品材料に関する情報や、化粧品の処方開発の考え方、乳化技術に関する情報などが得られた。		

研修名:	e-jinzai「品質マネジメントシステム入門」	連携企業等:	株式会社 ビズアップ総研
期間:	令和5年10月3日(火)10:00～12:00	対象:	応用生物学科専任教員
内容:	研修では、品質マネジメントシステム(QMS)の基本概念から具体的な運用方法までの講義を受けた。その中で、ISO9001認証の重要性と具体的なメリット、プロセスアプローチの実践方法について理解を深めた。さらに、ISO9001の各プロセスの詳細や要求事項の明確化、外部からのプロセス管理についても学び、学科の教育品質の向上にどのように適用できるかを考える材料が得られた。これらの学びを通じて、学科における教育プロセスの効率化と品質の向上を目指す戦略が確立する上での情報が得られた。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	教科横断的な学びとカリキュラム・マネジメント	ICT CONNECT21 講師 田村 学 (國學院大學 人間開発学部 初等教育学科 教授)
期間:	令和5年5月18日(木)10:00～18:00	対象: 応用生物学科専任教員
内容	教科横断的な学びについて、実例を紹介しつつ、「主体的・対話的で深い学び」を知識の構造化で整理し、そのことを実現するカリキュラム・マネジメントを作成する際の考え方や方法についてのセミナーを受けた。今後、学科のカリキュラムを改訂していく際に、教科横断的な学びを取り入れることで、学科運営に反映できる情報が得られた。	

研修名:	e-jinzai 教育能力開発研修「授業改善」	連携企業等: 株式会社 ビズアップ総研
期間:	令和5年10月3日(火)13:00～15:00	対象: 応用生物学科専任教員
内容	研修では、授業改善の基本から実践までについての講義をうけた。その中で授業改善の定義とその重要性、経験学習モデルなどの理論に基づいたアプローチを理解した。研修では、授業記録の重要性や評価アンケートの活用方法を学び、学習成果を明確にし、効率的な授業を実現するための戦略を習得した。これらの知識と実践を通じて、より効果的な教育実践を目指す具体的な計画が策定する際の情報が得られた。	

研修名:	e-jinzai「ファシリテーションの実践スキル ～会議運営・ブレインストーミング・合意形成～」	連携企業等: 株式会社 ビズアップ総研
期間:	令和5年10月3日(火)16:00～18:00	対象: 応用生物学科専任教員
内容	研修ではまず、ファシリテーションの基本的な聴く力から始まり、表情、服装、あいさつ、ポジション、視線などの要素を学んだ。次に、聴き方の応用として質問の種類やプラス言葉の重要性を理解した。最後には、実際のケーススタディを通じて、ポジティブな質問や相手の反応に応じた聴き方を実践した。これら得られたスキルと知識により、今後の学科の教育や会議運営において効果的なファシリテーションが可能となった。	

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第15回 COSME Week東京	連携企業等: RX Japan株式会社
期間:	令和7年1月15日(水)～1月17日(金)	対象: 応用生物学科専任教員
内容	化粧品産業における原材料、製品、最新コスメに関連する展示と技術発表から情報収集し、化粧品産業の最新の動向を知ることが目的とする。	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	多層化する専門学校生を最新データで読み解く「中退防止に向けた『入学前』からの学力向上」	連携企業等: 株式会社進研アド 専門学校事業本部
期間:	令和6年7月2日(火) 16:00～17:00	対象: 応用生物学科専任教員
内容	データから専門学校志望層の傾向を分析し、中退防止に向けた学力向上への取り組みを先進事例とともに紹介いただく。セミナーを受けることにより、学科のカリキュラムマネジメントに還元することを目的とする。	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議の中で本校の行った自己点検の評価について

評価委員からの主な意見は次のとおりで、それについての活用(対応)方法は以下のとおりとなります。

- ・学生に選ばれるための施策(新規獲得)と教職員の採用、満足度向上など課題が多い中ではありますが、意見交換や連携などをして多摩地域の就職に強い専門学校と多摩地区で必要とされる企業で魅力を伝え、発展をしていければと思います。
- ・現場の最前線で活躍する地元企業の専門家に講師をお願いし、ターゲットを明確にした授業などを実施してはどうでしょうか。
- ・報告内容にe-ラーニングで就職後に役に立つ学内資格の創設と受験動奨を実施すること、教諭の待遇改善とコンプライアンス順守などがテーマでしたが、業界により職種と担当業務によって必要とされるスキルが違うので、この資格があれば就職に有利というものを一概にお答えすることはできません。弊社では総合職採用としているので、持っている資格によって配属が決まってしまう可能性もあります。業界内の仕事をもっとスペシャリストを必要とする流れになれば良いのですが、今は何でもできる人が重宝されていることも事実です。
- ・教員の待遇改善については、先生のレベル・待遇が上がれば授業の質が上がると想像できますので引き続きこの取り組みを継続していただくことに賛成します。
- ・学生への思いや取り組み、社会のニーズに対応して行こうとされている姿勢に感激しており、マイナス評価をする要因がございませんでした。
- ・ハラスメントについては組織運営の中で非常に重要な部分であり、時代の流れや環境の変化に対応したコミュニケーション能力が求められると思います。教員と学生となると育ってきている時代背景が全く異なり、価値観や考え方もその時代の影響が根本にあるかと思えます。また職員同士も同様です。貴校ではハラスメント研修を実施しているかと思いますが、それが貴校全体に広まって行けば良いかと思えます。ただハラスメントを重要視し過ぎてしまい、変な勘違いをしたり、萎縮したりして、何でもかんでもハラスメントと訴えてこないような状況にして頂ければと思います。バランスが難しいかと存じます。
- ・コロナ禍がスッキリ明けたと言えない状況ですが、コロナ禍の真っ只中で授業を受けられていた学生と、新入生とモチベーションのズレが今後出てこなければ良いかと思えます。教職員の皆様もコロナ前に戻る回復力が大変ではないかと察します。日本工学院八王子専門学校が第一志望の学校となるよう微力ではございますが、何なりとご相談いただければと思います。
- ・全体的に特記事項については、過去3カ年ぐらゐの実績が書かれていれば良いかと思えます。それ以上前のことが書かれていると進化が止まっているような印象を持ちますので、もし記載するのであれば、改善、実施した結果が書かれていると良いと思えます。
- ・教職員研修は、実施されると思いますがこれからもどうか業務として認めていただけても合わせてお願いします。しかし自己研鑽という形ですまないようお願いいたします。
- ・保護者会は今後も対面、オンラインなどハイブリット式を継続していただければと思います。
- ・毎回ご説明を伺うたびに着実に学校運営を進展されていることに敬意を表したいと思います。殊にコロナ禍における授業のあり方について学生の要望に沿った改革を着実に図っていることは学が側に取ってとでも有難いことかと思われま。また会議の折にもお話いただきましたが対面授業とオンライン授業のハイブリットにおいて如何に学生とのコミュニケーションを取るかについてはご苦労された成果がよくわかりました。ただフィードバックのやりすぎということは無いかと思えますので更なる取り組みを期待しています。高等教育機関の多くが学生募集に苦慮している昨年、選ばれる学校としての特色づくりに精励されているお話も大いに評価されるべきところです。益々のご発展を期待して次回にうかがえることを楽しみにしております。

以上、学校関係者評価委員会において討議された内容を踏まえ、次の5点について検討し活用する。

1. 社会のニーズに対応するため、新設学科の検討を行う。
2. 第一志望の学校に選ばれるため教育の質の向上を図る。そのため教員の業務負担の軽減、教育研修の実施、研究授業等に取り組んで行く。
3. 企業連携を強化し、地元企業で活躍する実務者に講義を行ってもらい、専門教育の充実を図る。
4. 教職員がコンプライアンスの大切さを理解し、学校ハラスメント防止に徹底した取り組みを行う。
5. 教職員の満足度調査を引き続き実施し、問題点の洗い出しを行い、満足度向上を目指す。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務局長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)
公表時期: 令和6年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。
また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和5年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: [URL:https://www.neec.ac.jp/public/](https://www.neec.ac.jp/public/)
公表時期: 令和6年9月30日

授業科目等の概要

(工科技術専門課程 応用生物学科)														
分類	授業科目名		授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修					自由選択	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	
1	○		キャリアデザイン1	専門教育を生かした生涯キャリアのデザインを考えます。	1・後	30	2	○			○			
2	○		学習技法	本学科で必要とされる、習得すべき学習技法を学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
3		○	フレッシュャーズセミナー	本学科で学ぶ意義を理解し、学びの概要を知り、2年間のキャリアデザインを行います。	1・前	15	1	○			○		○	
4		○	ビジネススキル	社会人として必要とされるビジネススキルを磨きます。	1・後	15	1	○			○		○	
5		○	スポーツ実習1	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めま	1・通	30	1			○		○		○
6	○		バイオ実験の方法と考え方	実験の基本的注意事項について学びます。レポートや報告書の作成方法について学びま	1・前	30	2	○			○		○	
7	○		専門基礎生物学	医薬品、化粧品、食品業界で知っておくべき生命の成り立ちなどの理解に必要な生物学を基礎から学びます。	1・前	30	2	○			○			○
8	○		専門基礎化学	医薬品、化粧品、食品業界で使われる専門的な物質の性質や化学構造、化学反応式などを基礎から学びます。	1・前	30	2	○			○			○
9	○		専門基礎数学	化学や生物の実験に必要な数値的処理を理解する為の数学的手法の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○			○
10	○		分析化学	化学や生物の実験に必要な溶液の濃度表記法や酸・塩基の考え方、緩衝液について学び	1・前	30	2	○			○			○
11	○		微生物学	微生物の種類、構造、性質、培養法などについて学びます。	1・後	30	2	○			○			○
12	○		応用微生物学	環境衛生や食品衛生、医薬品生産など様々な産業における微生物の利用法について学び	1・後	30	2	○			○			○
13	○		有機化学	生命反応の理解に必要な有機化学の構造と性質および反応の基礎を学びます。	1・前	30	2	○			○		○	
14	○		生命有機化学	有機化学で学んだ内容を活かして、生体分子の機能・反応・役割について学びます。	1・後	30	2	○			○		○	
15	○		物質の生化学	生命機能の維持に関わる糖質、アミノ酸、脂質などの構造と性質を学びます。	1・後	30	2	○			○			○
16	○		酵素と代謝の生化学	生命機能の維持に関わる代謝系や光合成、生体調節の仕組みを学びます。	1・後	30	2	○			○			○
17	○		遺伝子工学	遺伝子操作技術を学び、有用物質などを大量に生産する方法を学びます。	1・後	30	2	○			○			○
18	○		統計学1	PCや電算機を使い平均や分散、標準偏差や標準誤差を求め、その数値の持つ意味について学びます。	1・前	15	1	○			○		○	
19		○	統計学2	PCや電算機を使い応用生物分野での実験データの処理法や有意差検定について学びま	1・前	15	1	○			○		○	
20	○		基礎化学実験	化学系実験や化学系実験の基礎となる器具の正しい取り扱い方を習得します。	1・前	60	2			○	○		○	
21	○		基礎バイオ実験	バイオ実験(医薬品、化粧品、食品関連)において必要となる実験の基礎知識と基本操作を習得します。	1・前	60	2			○	○		○	
22	○		生化学実験	生物の重要な構成要素であるタンパク質と酵素の取り扱いに関わる実験技術を習得しま	1・前	60	2			○	○		○	

(工科技術専門課程 応用生物学科)															
必 修	分類		授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	選 修 必 修	自 由 選 修						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
23	○		応用化学実験	化学反応を利用し様々な製品とのつながりを考えながら分析や製造にかかわる実験技術を習得します。	1・前	60	2			○	○		○		
24	○		微生物学実験	さまざまな微生物の取り扱い技術や同定方法について習得します。	1・後	60	2			○	○		○		
25	○		発酵微生物学実験	微生物が関与する様々な製品を題材にし、分析や製造にかかわる実験技術を習得します。	1・後	60	2			○	○		○		
26	○		遺伝子組換え実験	生物からのDNA抽出法など遺伝子工学技術の基礎を習得します。	1・後	60	2			○	○		○		
27	○		総合バイオ実験	化学・生物系の実験技術を総合的に使い、医薬品、食品、化粧品分野における実践的な実習を行います。	1・後	60	2			○	○		○		
28		○	インターンシップ1	インターンシップに参加して実践力を養います。	1・通	30	1			○		○		○	
29		○	キャリアデザイン2	専門技術・知識を生かした活躍の場を手に入れる為のマナーや心構えを身につけます。	2・前	15	1	○			○		○		
30		○	プレゼンテーション	様々な場面で必要とされる、プレゼンテーション能力を磨きます。	2・前	15	1	○			○			○	
31		○	スポーツ実習2	スポーツを通じ身体を鍛え人間力を高めま	2・通	30	1			○		○		○	
32	○		分子細胞生物学	生物の基本単位である細胞と細胞内分子との協理解によって生命現象の本質を学びま	2・前	30	2	○			○		○		
33	○		農と植物	植物特有の構造を知り、農業や植物バイオテクノロジーについて学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
34	○		化粧品化学	化粧品を支える科学技術に関して全般的に学	2・前	30	2	○			○			○	
35	○		美容学	皮膚の作りや生理学的背景をもとに、どの様	2・後	30	2	○			○			○	
36	○		免疫学入門	生体の持つ防御機能である免疫の仕組みに	2・前	30	2	○			○		○		
37	○		機器分析化学	バイオ実験(医薬品、化粧品、食品、環境業	2・後	30	2	○			○			○	
38	○		商品開発論	世の中の商品がどのように生み出されてきた	2・後	30	2	○			○			○	
39	○		薬の作用	体内に入った薬が病気に効く仕組みや、薬の	2・前	30	2	○			○			○	
40	○		食品化学	食品に含まれる栄養素とその吸収方法や機	2・後	30	2	○			○			○	
41	○		食品分析	食品中の栄養成分の測定法や食品の検査法	2・前	30	2	○			○			○	
42		○	品質管理	品質管理に対する知識を習得すると共に、品	2・前	30	2	○			○		○		
43		○	バイオテクノロジー	生化学、微生物学、遺伝子工学、分子生物	2・後	30	2	○			○		○		
44	○		植物と農業実習	植物特有の取り扱い方や、植物の構造を利用	2・通	60	2			○	○		○		
45	○		分子生物学実習	遺伝子操作や遺伝子発現解析実験など分子	2・通	60	2			○	○		○		

(工科技術専門課程 応用生物学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
46	○		医薬品実習	医薬品の分析技術や研究・開発にかかる様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
47	○		食品製造・加工実習	食材・食品の成分の基本特性、食品の安全性について実際に加工することで意義や原理を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
48	○		食品分析・食品衛生実習	食品の分析技術や食品の安全を守るための様々な実験技術を習得します。	2・通	60	2			○	○		○		
49	○		化粧品製造実習	化粧品の製造技術や成分の分析技術など様々な製造にかかわる技術を習得します。	2・通	60	2			○	○			○	○
50	○		化粧品企画実習	新商品の企画や既存商品の改良の方法、他社製品の情報調査の仕方について習得します。	2・通	60	2			○	○			○	
51	○		商品開発実習	PCを使ったりサーチや統計調査などを用い、地域に根差した商品などを提案する方法を習得します。	2・通	60	2			○	○			○	
52		○	実験動物学実習	実験動物の取り扱いや生命倫理について学びます。	2・通	30	1			○	○		○		
53		○	インターンシップ2	インターンシップに参加して実践力を養います。	2・通	30	1			○	○		○		
合計					53 科目			1980時間 単位(単位時間) 95単位							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件: 卒業時に必修科目1695時間(81単位)および選択科目90時間(6単位)以上取得し、合計1785時間(87単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
履修方法: 1年次は必修915時間、選択科目30時間以上履修すること 2年次は必修780時間、選択科目60時間以上履修すること	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。